

8 会津平坦地における「まなむすめ」の良品質栽培のための適正粒数と栄養管理

福島県農業試験場会津支場・平成12年度農業試験場試験成績概要

1 部門名 水稻－水稻－作物栄養 分類コード 01－01－12670000

2 担当者 新田靖晃・松本靖・鈴木幸雄

3 要 旨

会津平坦地は中・浜通りに比べ粒数が多めに確保され多収を得やすい反面、粒数が過剰となり品質の低下、食味の低下を招き易い。このため、適正な粒数と幼穂形成期の栄養管理について検討した。

(1) m²当り粒数が多くなるにしたがって増収するが、粒数が35000粒以上では増収効果は認められなかった。

(2) m²当り粒数が34000粒を超えると、乳白粒、腹白粒、青未熟粒が発生し、外観品質(1-9)にばらつきが生じた。外観品質の1等相当(1-3)を目標としたm²当り粒数は30000粒～34000粒であった。この粒数レベルから収量は70～75kg/aが期待される。

(3) m²当り粒数が多くなると玄米中のタンパク質含量は増加した。食味を低下させないため、タンパク質含量8%以下を目標とした場合のm²当り粒数は34000粒以下であった。

(4) m²当り粒数30000粒～34000粒を得る幼穂形成期の葉色(SPAD値)の目標値は、34～36であった。